

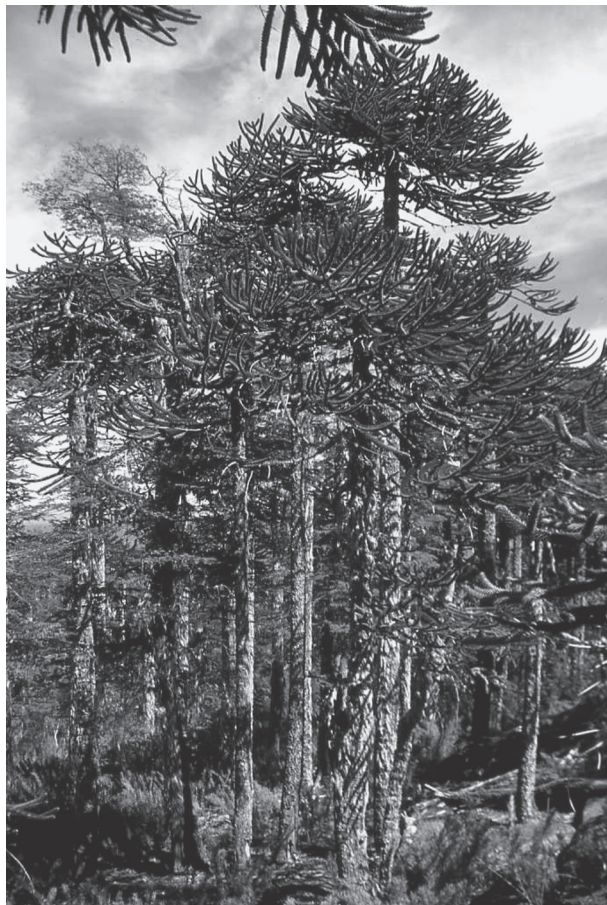
## 眼で見る世界の森林 (4)



### チリマツの森 (*Araucaria araucana* forest)

英語名を“monkey puzzle”とも呼ばれるチリマツ (*Araucaria araucana*) はチリの南部と中部、アルゼンチン南西部に分布するナンヨウスギ科の樹木である。樹高50m、胸高直径1mに達する高木で、ナンキョクブナ類と混生するか、純林を形成する。山麓の湿ったローム土壌および安定した火山灰土壌などで生育する。学名はチリマツの分布している地域に居住していた原住民 Araucana 族に由来する。彼らはチリマツを神聖な木としてあがめ、種子を食料として利用していた。19世紀になってヨーロッパ人がチリマツの生育地に居住を始めると燃材や建築材などとして大量消費が始まった。さらに、鉄道の枕木や鉱山の坑木、パルプ材などの利用が伐採に拍車をかけた。現在はIUCNのレッドリストにおいて“Vulnerable”に指定されるとともに、ワシントン条約 (CITES) 附属書1に掲載され、国際的な商業取引が禁止されている。

チリの *Araucaria* は第Ⅷ州～第Ⅹ州の沿岸部とアンデス山地部に分布している。沿岸部には約7,400 ha、山地部には約253,700 haのチリマツ林が残され



ている。沿岸部に分布するチリマツ林の約1/3は州の保護地、残り2/3は私有地で、沿岸部のチリマツ林をどのように保全するかが大きな問題となっている。アンデス山地に分布するチリマツ林は比較的大きな面積が残されており、アルゼンチン側にも同程度の面積が広がっている。ここでは山麓の天然林が伐採され、人工林（主としてラジアータマツ）に転換されていることが問題となっている。大型の種子は食用となり、野生動物および家畜の餌として利用されており、更新の妨げとなっている。

写真は第Ⅸ州（スペイン語では“Region de la Araucania”）の州都である Temuco から北東に約80 km 入った山の頂上付近（標高約1400m）に広がる *Araucaria* 純林である（☆印）。解説は C. Echeverria, C. Zamorano and M. Cortes による “Conservation and restoration of monkey puzzle (*Araucaria araucana*) forests in Chile” (2004) およびキュー王立植物園のホームページ (<http://www.kew.org/plants-fungi/Araucaria-araucana.htm>) を参考にした。（森林総合研究所 齊藤昌宏）

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は本誌83号25頁を参照ください。